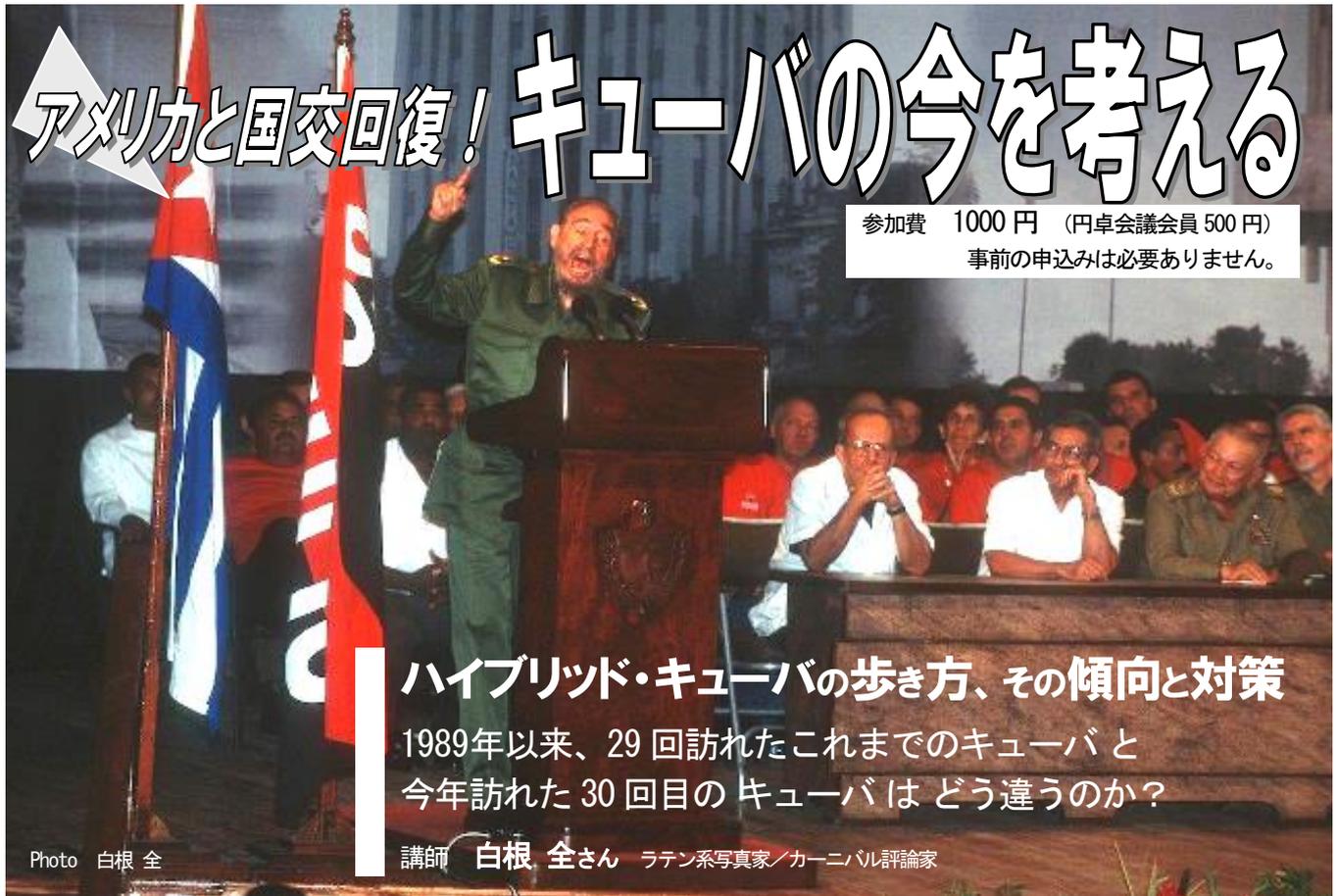


2015 キューバ友好フォーラム

12月19日(土) 13:00~16:00 開場 12:30

会場

日本記者クラブ大会議室 TEL 03-3503-2721 東京都千代田区内幸町2-2-1 日本プレスセンタービル9階
最寄り駅は東京メトロ千代田線・日比谷線霞ヶ関駅、東京メトロ丸ノ内線霞ヶ関駅、都営三田線内幸町駅、JR新橋駅日比谷口



アメリカと国交回復! キューバの今を考える

参加費 1000円 (円卓会議会員 500円)
事前の申込みは必要ありません。

ハイブリッド・キューバの歩き方、その傾向と対策

1989年以来、29回訪れたこれまでのキューバと今年訪れた30回目のキューバはどう違うのか?

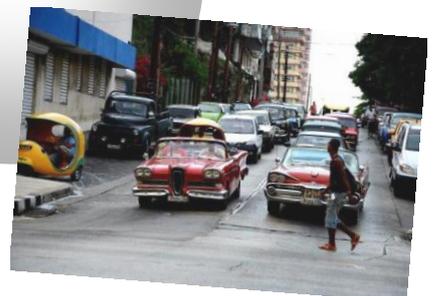
講師 白根全さん ラテン系写真家/カーニバル評論家

Photo 白根全

しらね ぜん

日本で唯一、世界中でも2人しかいないカーニバル評論家、ラテン系写真家。仕事(撮影取材調査渉外観察記録編集企画制作など)、その他(探検冒険踏破潜入縦断横断登攀釣魚沈没など)、さまざまな理由で現地に入り浸っている。

人類400万年の旅グレートジャーニーのサポート、コーディネーターも担当。これまでに訪れた国は6大陸、150カ国超。ラテンアメリカとカリブ海域の主なカーニバルはすべて制覇。定点観測と路上観察を続けているキューバは、1989年以来この夏で30回目の訪問をマークした。東京出身。青山学院大学卒。



♪どなたでも参加できます♪ お友達を誘ってご参加ください★

お問い合わせはFAXかe-mailで下記へ。

キューバ友好円卓会議 〒157-0073 東京都世田谷区砧 8-15-14-101
FAX 03 - 3415 - 9292 e-mail : cuba.entaku.0803@gmail.com

9月8～9日／第7回アジア太平洋地域キューバ連帯会議（ベトナム・ハノイ）に参加して

キューバの現実を伝える闘いはこれから

報告 井ノ上節子（栃木県）



18 か国から 220 人、日本から 17 人

9月7日、ベトナムのハノイ・ドイバイ空港から、迎えるワゴン車に揺られ1時間あまり。着いた先は、MELIA Aホテルだった。ここで、8、9両日にわたり、アジア太平洋地域のキューバ連帯会議が行われた。

主催者発表によれば、参加は、18 か国から 220 人に及ぶ。日本からは、ピースボート、クバポン（日本キューバ連帯委員会）、日本キューバ友好協会、民医連、そしてキューバ友好円卓会議と、総勢約 17 人が参加した。

近くの席にはインド、韓国、バングラデシュの人たちが見える。キューバからは、ICAPのメンバーや、自由の身となった5人の「英雄」の一人、アントニオ・ゲレロ・ロドリゲス氏が馳せ参じた。夜の歓迎夕食会では、USA代表と隣り合った。

会議第1日目は、全体会と分科会。全体会では各国代表のスピーチが相次ぐ。二つの分科会テーマは次のよう。

- ①キューバ発展の障壁である、経済、金融、貿易封鎖を除去するための友好連帯組織の役割について。
- ②キューバの社会、政治、経済の現実を、メディアを介して知らせるさまざまな方策の連帯強化について。

キューバを介してアジアの人々と交流

第2日目は、分科会報告と質疑応答、討論。最後にハノイ宣言の採択。会議のほとんどの司会を、ICAPの女性総裁ケニア・セラノ・プイグさんが担っていて、その見事な交通整理が印象的だった。

宣言文を読み上げたのは、ピースボートの松村真澄さん（円卓会議メンバー／写真左）。ケニアさんや副総裁のアリシアさんに会った途端、頼まれたとのこと。

このような会議に初めて参加して感じたことは、距離的にキューバから遠いアジアで、キューバの主張の正当性がしっかりと受け止められている現実だ。

私がテーマとして目新しいと感じたメディアの問題は、日本においてこそタイムリーに思う。最近キューバ取材が増えているが、米国の経済封鎖のいきさつを全く無視して、体制が違うがゆえにそうになっていると、ひどく緩く伝えて

いる番組があって、驚きあきれ返ったものである。

キューバを介して、沢山のアジアの国の人々と、顔の見える関係で繋がりがあえるのも不思議で楽しい。韓国の人にバッジをプレゼントされた。セウォル号の事故の真相究明を求め、犠牲者を忘れないためのものという。

ハノイ宣言は言う。グアンタナモ基地返還、経済封鎖の解除、キューバの現実を伝える闘いはこれからと。確実に、その思いは参加者全体のものとなった。

東京国立近代美術館フィルムセンター 展示室（企画展）

キューバの映画ポスター

竹尾ポスターコレクション所蔵作品を中心に、革命期から1990年前後までに制作された85点の映画ポスターを紹介

2016年1月7日(木)～3月27日(日)

開館時間 11:00-18:30（入室は18:00pmまで） 休室日：月曜日

後援 駐日キューバ共和国大使館

会場 東京国立近代美術館フィルムセンター

〒104-0031 東京都中央区京橋 3-7-6 / 東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分 / 都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分

観覧料 一般210円（100円） / 大学生・シニア70円（40円） / 高校生以下及び18歳未満、障害者（付添者は原則1名まで）、MOMAパスポートをお持ちの方、キャンパスメンバーズは無料

トークイベント

1月16日(土) キューバの映画情況とポスター

会場 展示室ロビー（7階）

講師 岡田秀則 フィルムセンター主任研究員

寺島佐知子 キューバ映画研究者

2月6日(土) キューバ映画の過去と現在

会場 展示室ロビー（7階）

講師 比嘉世津子 映画配給会社Action Inc.代表

太田昌国 ラテンアメリカ現代史研究者

3月26日(土) 展示品解説

講師 フィルムセンター研究員が展示品を解説いたします。

★1月16日から2月28日までの土・日曜には関連上映企画

「キューバ映画特集 革命映画から映画革命へ」開催。